

「丹波市地球温暖化対策実行計画」 ∞平成25年度 進捗状況報告（平成24年度実績）∞

「地球温暖化対策の推進に関する法律」第20条の3第10項に基づき、平成20年度に策定した「丹波市地球温暖化対策実行計画」の進捗状況を報告、公表します。この計画では、実行計画の数値目標の達成状況等を把握し、温室効果ガスの排出抑制を行うことで、地球温暖化対策に取り組んでいくことを目的としています。

☆計画の概要☆

- ◎計画の基準年：平成19年度
- ◎実行計画期間：平成21年度～平成25年度（5年間）
- ◎調査対象施設：庁舎を含めた公共施設

【計画で対象となる温室効果ガス】4種類

- ・CO₂（二酸化炭素）、
- ・CH₄（メタン）、
- ・N₂O（一酸化二窒素）、
- ・HFC（ハイドロフルオロカーボン類）

- ◎基準年の温室効果ガス総排出量 16,974t-CO₂
- ☆行政活動起源 14,936t-CO₂
- ☆廃プラスチック起源 2,038t-CO₂

★削減目標★基準排出量（16,974t-CO₂）に対し
1.5%（255t-CO₂）削減

☆平成24年度温室効果ガス排出状況☆

- ◎平成24年度温室効果ガス総排出量 17,181t-CO₂
- ☆行政活動起源 13,454t-CO₂
- ☆廃プラスチック起源 3,727t-CO₂

【検 証】

平成24年度温室効果ガス総排出量

排出量は17,181t-CO₂となり、基準年の排出量（16,974t-CO₂）に対して207t-CO₂（1.2%）増加しました。行政活動起源による排出量は減少しているものの、廃プラスチック焼却による排出量は増加しました。

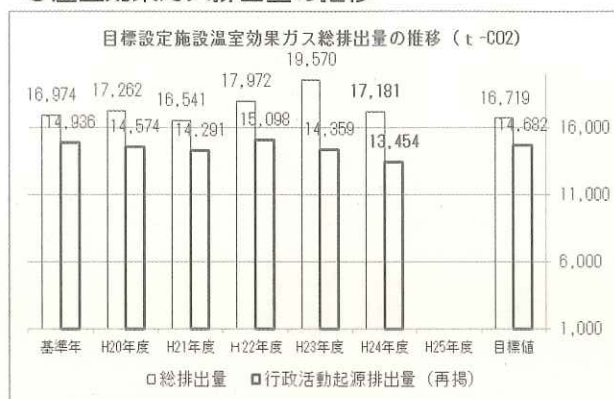
◎行政活動起源による排出量の減少理由

主に、人口減少による上下水道施設の活動量の変化等に伴う電力使用量の減少の他、施設熱源の変更による排出量の減少、節電意識の向上による成果等の理由が考えられます。

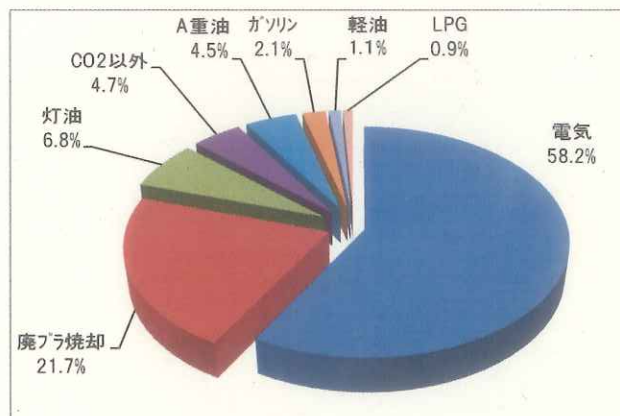
◎廃プラスチック焼却による排出量の増加理由

主に、クリーンセンターから排出された廃プラ焼却による排出量の増加（82.9%）は、資源リサイクル、特に容器包装リサイクルの取り組み上、「汚れの落ちないものは燃やすごみ」とすることに変更したことが要因です。

●温室効果ガス排出量の推移

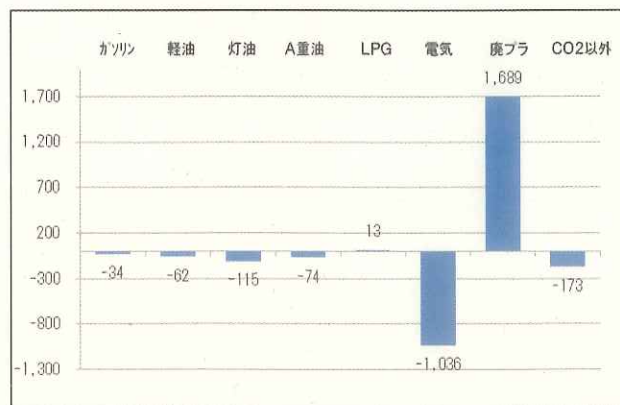


●温室効果ガス排出源構成（H24 実績）



●排出源別温室効果ガス排出量及び増減状況（単位：t-CO₂）

項 目		H19 年度	平成 24 年度		増 減
		排出量	排出量	基準年対比	
燃 料	ガソリン	391	357	-8.7%	-34
	軽油	250	188	-24.8%	-62
	灯油	1,290	1,175	-8.9%	-115
	A重油	839	765	-8.8%	-74
	LPG	151	164	8.6%	13
電気		11,037	10,001	-9.4%	-1,036
廃プラスチック焼却		2,038	3,727	82.9%	1,689
CO ₂ 以外の温室効果ガス		976	803	-17.7%	-173
温室効果ガス全体		16,974	17,181	1.2%	207



温室効果ガス削減に向けての今後の課題

行政活動による温室効果ガス排出量については、設備の利用や運用方法といったソフト面での取り組みを継続させるとともに、現行の設備や機器の更新時に、より省エネ性能の高い設備、システムを導入するなどのハード面での取り組みも充実させることで、温室効果ガスの計画的な削減を図ります。

一方、廃プラスチック焼却量については、ごみの分別について協力いただいているものの、基準年の排出量に対して82.9%増加していることから、更なる総量抑制の取り組みが必要です。